靱隨筆

一

863
2
124

国立国会図書館　タイトル『靱隨筆』　請求記号 863-124

ガラス使用

863-124

靱随筆

權道茅仲著

一花見車八他者を志たるもの輙士ちるを
固めとし中あしもるら鳴弦とつゝまるよ
をいられ好の癖として増長傷ふうつる
やすく人らも上ふかもんをとりよ
やしくも見車を雑しら其角も
ものゝゝらもるるんのみの趣也

国立国会図書館　タイトル『靱随筆』　請求記号 863-124

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『翰随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

釣り又浦嶋兒の堅魚(カツヲ)釣りの余人の名をも
めしわれいきすうの兼好是をとゝめわも
ゝ〳〵すゝ書し賦役令堅魚(カツヲ)三十五斤
鰒(アハビ)十八斤烏賊(イカ)三十斤なしわるとの
〳〵鰹の供帝鰹(カツヲ)しとうめる松の節(フシ)ゝ仰られい
鰹をテしうめる松魚(カツヲ)と書くハ朝鮮名し漢名〳〵を
黒鰻魚(カツヲ)と云〳〵宜うゝしやとある

名醫の考し堅魚(カツヲ)と書るゝ所〳〵
魚ゝ〳〵鰹(大銅也 鱧也)字宜〳〵借しるゝ鰹の
〳〵煮鰹うゝ鰒(アハビ)半貝の類ゝ所むゝ
ゝ調味ゝ〳〵しるゝ〳〵庖丁ゝ
牛ゝ解(ト)くゝ百里ゝ切鰹ゝ〳〵ゝ
わゝ〳〵しゝなゝ労ひるゝん

初鰹朝鮮人と衝(ツイ)て申く春来
ゝ〳〵ゝハ千人切やゝゝ鰹 雪淀

あけぬ　初鶯　曉翁
伊勢原や山ゝ霞　初鶯　茅舟
一声ハ雲町ちまち　初鶯　茅車
菊よりいともうるおいみち寒し
うの華ゝ
みちといで霞ゝ　青ゝ　初鶯　茅瑳
みちと衝ゝうゝ　初雲雀　茅仲
見ち鎌倉路の眼前ゝ

きゝあめゝ本よ自ゝ　初鶯　菊丸
見ゝのゝゝあの一艘ゝゝ　茅平
初牧宮ハ猶ゝ　初雲雀　連城
初ゝと羽織ゝ　東爲
忠文民ゝ将軍東国ト向の時清水
澁藤ゝゝゝ　杜宵崖ゝ詩ゝ
ゝりいとゝ泳ゝ　ゝる漁舟の去のゝげ
寒きあゝて　ゝの景色のゝゝゆゝ
松明ゝ　茅字

一日ふ二度あるゝ時も鶯可南　再賀
鶯はゝ〻みゝ〻ゝ〻ゝ　松ゝ園　菊院
夕月のゝゝゝ侍氏雪哉　茅山
今朝ゝをわ富士もつれる鶯氏　茅仲
更ゝゝ短夜遊ゝゝゝ丹　秀曉
鶯答ひ嘉美ゝゝのゝゝひと　諫子
いゝはゝる鶯のゝゝめゝゝの海　萬四
鎌倉ふ為惜ゝゝゝゝ鶯氏　田社

吾妻めゝ梅花ゝゝいのゝとゝ仆　茅德
わゝゝ日ゝ餅ゝゝゝ石の鶯の角　茅運
涼ゝゝゝ鶯のゝゝゝゝゝ大拾枝　万年
鶯看ゝゝ入ゝの所や人乃涙　扇裡
周ゝゝ鶯ゝ訓ゝゝゝあゝゝゝゝ冷ヒ　千
ゝゝゝ是鮑ゝ乾ホシウヲ魚の頭ゝゝゝ串貝
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]や既に所決明とな
[illegible]生涯(ナヽカヒ)[illegible]考へきと[illegible]
[illegible]国[illegible]生節(ナヽフシ)なしもいとあらぬ
一榊[illegible]神樹(ハヽ)[illegible]鞳(タウ)ハ雪国に[illegible]
鞳(イワシ)いと[illegible]の訓(ヨミ)[illegible]
の文字の叔(サテ)[illegible]文字[illegible]めい真名書
めく又手(サテ)[illegible]立山の西麓[illegible]
[illegible]叔(サテ)[illegible]

[illegible]作られ[illegible]
一西行法師の弁[illegible]
[illegible]
[illegible]公衡(キンヒラ)中将の[illegible]
[illegible]持[illegible]
い世[illegible]
[illegible]
[illegible]弱(ヨワ)[illegible]人[illegible]

国立国会図書館　タイトル『靱随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

鎌倉殿ゆゑに右大将家に謁のわらは
詠歌をば僧侶世一字とするなり
ゆゑ弓馬のことは見ぬ事鑑
一毒
一同書云太輔坊源性は元雄の算術者し
奥州より下向し頼朝卿の御前
まゐるゆゑにしのわれ使はれ
云ひ鳴ふ猶の位僧なり是ゆゑ貴

天下第一の算術也隠形の算をもつて
龍猛菩薩の術ふ行ひ算を
使はれ者の迷ひふ行ひ時ふ者の掩る
ことを得ず方丈の間く方丈なり
ゆゑに大海ふ変と著する所の圓座
盤石なり松風頻ふ吹き時風声を
人惘然として存亡を辨へ難し
後ふ自讃已ふ怪あり後

悔のことゝ言ふ方なく兼卿の情(シン)くゝ停止(ヤメ)まくしゝ伝説(クチ)するゝ及ゝ茅(モウ)部(ブム)卿ゝ敬ゝ白日すゝ敬(キン)仰(カウ)の余ゝ傳授のゝとなすしくゝも未世の横根(ヨコネ)のくいさつけるあたゝ是とゆゝたゝくゝ頼(タヨ)卿作(ツクル)ふとの伝ゝ伴ひまゝるゝ是越後也ゝ

まゝふ眼前のゝるゝ信ぜのゝ

虚妄傳奇(キヨモウテンライ)の説(セツ)おのゝゝの頼まれのゝす

神度の三字のゝゝくいさまの原性

赤面ゝゝ色

一琴しゝくゝゝ三線(サミセン)しゝ原俗なゝ

琉球(リウキウ)の里子(サトノス)等ゝゝまゝぐるも樂(カクキ)器

ゝゝるゝぐ世童の拍子舞のゝゝ書

けゝくゝしいつくも回し遠声なゝ

五雑組ゝも三絃(サミセン)い倡優(シヤウユウ)のゝとゝのゝ

樂んく度とゐき艶かして實なるも
生まるさらしなる美きも強さも
なのりふ妓とふる筆もまた
ぬわれみくねゑしきくわるき
つるなたし秋うせたる月のふ
ふまみたのきのかの酒かいるるなる
なるるし更くい国のかをくい舟の
らしまゆいるるぶ海置ところ

くるるるる是と蘇曼皓歯鄭衛
音ハ性を伐る斧呂氏春秋
三味線とかつくすれて出撥 茶仲
拍子おかよとなる娘姉 老瓦
蜩の小便ゆうんぼんのくい 茶德
し寶の惜くるとる草の原 我梁
野とおかれるわかう 四川
松虫やあるしの声の色 茶平

明とゝのふ戻り川ま蕉　時雨
猶ちゝやけんや雲むし　再機
秋風ふ賞のゝゝ　臺作　木童
ゝゝゝ花ゝゝ花のあるじやまま　菊院
名ゝの業師ゝふゝゝ生ゝ　與一
松ゝゝ何指南ゝる竹格子　英旭
草の葉の色おゝゝゝゝす　都十
鈴ゝゝ身ゝゝゝゝ　羅枕　茅郁

春鶯ゝ囀ノトリ花中ニ秋蟬ノムシゝ吟樹上ニ
ゝの一字ゝゝゝゝ
俗のゝゝゝゝ黒茶
鈴ゝのゝん　茶仲

一山川行

梅ゝ柔ゝ新ゝ花の時ゝゝ
ゝ雪中ゝゝゝ
今ゝ谷ゝ鳥居のか百合郭公　六盆
南ゝ海ゝ如来嶽ゝの山ゝ
庵ゝゝゝ

行くまとは是雪のシテの月さび　茅仲
うらの岡の鐘の秋の神さび　霍石島　茅山
山伏とわたれば郭公　百菴
うれしらし是こそ時鳥　秀億
しら糸の眠れる伏ゝ　鯉凡
茅斗　ひぐらしの子規　か鳴句当　露英
是過ての猪の時鳥　章雅
雪の山ふる流星つゆ　田直

君うすし心の華を驚かす　杜鵑　茅謡
馬士唄の曙黒し　係蒼蒼伎須　飛鯨
みゝ字よと教へ過るかすみ　青霞
恋の通ふ道つゝ　鳴海　和菊
吐月　わきまへ月夜の時鳥　茅仲
義帝ゝ往てわらの庵　遊菊
夕ゝ蚊有とかるゝ郭公　髮鯉
嘘ゝの一声ゝ郭公　吐月

四方くゝの時鳥りうきす　義延

わさいの秋と鶯すゝ奴の使ひ

久方やさのれいわくる霞ゝ　茅仲

ひさふ事くゝりゝ時鳥　巨龍

津の所い二月ゝ部ゝ　曽嵐

ゝゝゝ嶋ゝ海棠の樹のゝ　佐原百道

鶯やしづまぶ子ゝ所ゝ時ゝ　関宿阿誰

当腰ゝゝの今ゝの名ゝゝ　巴風

一ひゝの兵百人ゝゝゝゝ（ハヘモノ）ゝ獨ゝ

ゝゝ判ゝ西山宗因也　長ゝの風ゝゝ

低ゝゝれひゝゝゝれい書ゝのゝゝ

ゝゝ長ゝ宗ゝゝ

兵俳諧鎗（やりク）ゝゝ鉄炮のゝ

越ゝ本歌のゝゝ竹（タケタバ）ゝ把の付合

城の塔ゝゝゝ旗のゝ合ゝ

ゝゝ見す虎ゝ宗ゝゝ時の声都合

共に一百貫着到に付き[illegible]
流れ一ツ目の[illegible]梅の[illegible]の實檢し
[illegible]て一向の働無[illegible]批判[illegible]
[illegible]

八幡太郎[illegible]山水
百貫の[illegible]
[illegible]任[illegible]
十二年の[illegible]
[illegible]の田村丸[illegible]
[illegible]

夜食[illegible]
一鏡[illegible]
[illegible]入の上[illegible]
[illegible]露を[illegible]
持[illegible]
[illegible]
世[illegible]
入[illegible]

[illegible]け者小山の月わ持つて
[illegible]
[illegible]鑵りてくれるさん。[illegible]
[illegible]
[illegible]枕一条摂[illegible]
[illegible]
小車（ヨクルメ）書とお今[illegible]の宿
[illegible]
[illegible]二階堂

押ぬい長範頭巾[illegible]
唐代[illegible]富士見
[illegible]去良[illegible]葛の御道[illegible]
[illegible]
露の[illegible]い晴る[illegible]河道
[illegible]直理（ワタリ）り彼
[illegible]の人の[illegible]と鳥の海
引[illegible]の眼 權五 道[illegible]
[illegible]

常のまま赤皇子
赤皇子
の鷺れ
湯まつる宮人
の
紀清白黨
詩歌
蒲桜
長山
三好
都
義盛
輝
伊勢の

信をとりまきしれを意とを活まとめる
金石をもて今朝毎日信をふ事四分の常分の
橋ト松かこしふ地下ト
場 ばる ばる 小山 崩れ
義貞のあとをひしく他の寄
則祐即佛しの高
非身非仏の念仏のる
月のおりを行ん最明寺
石首のしおり宗盛

川合山安同十郎かう
藤の寄 侯屋 栄新
いしまを村の寄 茂林
切雪ましれ 狼助
冬まれまを冬の雪ハ物
ましる 三角入道
川陶を親をする法の花
焼ものあるる

人中の慶まね厥おも蘭丸
判官[illegible]ましふ 抵大坊
又伐三浦助ろいくらして
[illegible]我のまくれ 狩宮朱めくおるろ 百六ろ 百六ろ河のおめ
判官ぐりん三声 鐘とつ来のと
其晩をあらい 武蔵め 判官の宮
お世ろ沙勒を極凡れ
ねるるるしろ和泉船や入

一枝の花を判官のうい数地
焼鳥ぐりしを囀る
朝倉のその兵利ふ色とけ
庭もろふ猛ぐ中良
月実てのうへ先み信まら
大溢れ頼朝まる秋
ゐるふ千る重衡めれる
用ろるん瀧に ら油

時雨清水の冠者とのゝ
海舟小さ舟ゆきもとゝ
夕嵐松の根の井のさゝぐ波
長濱さして津原うつ里
相場ゆきとゝの酒もと
其ゝ為者の青砥左衛門

愚墨五十七句長十五
七十五歳
梅翁判

写本誤テ句ヲ脱す句標ノ負相違本ノマヽ

一八幡殿奥州合戦の時味方軍兵の中ゝ三浦
平太郎為道とゝ者剱の矢とゝく射つ
とゝて敵の矢のあとゝ梅の枝とゝ
とゝ是とゝ花とゝ白とゝの袖とゝ
梶原ゝ服の花いはの風情とゝ

鳴海
鍋盛

白梅や四季のゝとゝこゝ外
是あとゝ俗の蝋燭や周の梅　茅仲
ひとゝ笑や屋敷酒の絶ゝ人　鯉風

三輪とあるよりと連く宇佐見　柳尾
実の時とあるまきるうめのも　潭島
何ゝ万里飛ばねる春雨　茅諨
風鳥ふるふるふるる柳可南　我梁
ゝゝゝの待んゝあける柳か　紅丸
ゝ年われる苦悪（クケン）もかくて柳か　遊翁
ゝ柳や世ゝゝゝ祈ちゝ切　茅山
いろくゝ沼のゝゝれる柳ゝ南　茅策

ゆるゝ月ゝ柳の夜ゝゝ世ゝ　山子
人ゝゝ風ゝゝゝる姿の姿ゝ　青霞
時の色ゝくゝ深ゝる松可奈　尾州鳴海　鉄夏
宇佐ゝゝゝる松尾仏果寺ゝ庵
ゝゝゝゝ寄信ゝゝ茅の沼
の白ゝゝゝゝゝ松尾ゝ
ゝ青ゝゝ松ゝゝ白ゝゝ白馬
とゝゝゝ馬ゝゝゝゝ都
過ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ松の葉ゝゝゝゝ

[illegible]

青柳やきのふけぶりの白むらん　由林

大内と賞め斗の柳かな　水路

いくしほの年ふるる若かな　栖雀

[illegible]ふ若葉くもれる梅雨　同常　浙江

鶯なくく供とのくして若葉哉　茅宇

道同へい昔い新なる野花畑　軽羅

山猫は昔ゝ一つ土の味　茅瑳

伊勢武者のうしろ見せる桜哉　百菴

猶毒のたまふ長くなる桜かな　鳴海　和菊

秋冬のあらく腫気[illegible]

常力針灸の功あらく衛性復ふ

かりしまぬ臭と川くの備あり

思ひいそ

[illegible]や千代ふかいなる儀剣松　几鳥

ゆくく柳ふ履新の色　春来

享保元文の流行[illegible]

あちこちの[illegible]の巖に　茅瑞

葉のもやに捨て　佐原　百道

大根の[illegible]の[illegible]　清泉

亀戸　村

御膳に貴茶の[illegible]　野大根　茅伸

なかなか風男のにおかたく　文幸

庭の茅や夫数[illegible]　再賀

山吹や文字わ[illegible]何らも　茅二

[illegible]に板屋風[illegible]下流　棄也

子とつれ牛のわゆや堂原　我又

茅屋や山小寒茅所　茅礎

洗濯の川とゆ山[illegible]　菓院

もの中ふわとの仙わ　府月

旭[illegible]と隈[illegible]　東為

[illegible]の毛澄ゆ[illegible]　再機

むし絵の熊谷笠や櫻狩　吉田　魚川

有漏無漏の行の真如を[illegible]　朱爾
つまれてハしの空をまもる[illegible]　露牙
藤棚や柱もとくぬるくハ　張水
郡山の夏をとうとく
食を民用手月のハ素堂ち若葉ハ　茅徳
やうやうの淡黄かけ[illegible]る若葉ハ　吉門
ちらぬ樹の名をかくるうの花　我又
園をわく牛もうるの若葉　呑江

四阿の盃をうくまる若葉哉　張水
周元の銭情ちゃ牡丹好　平砂
千金をつゝんだくの牡丹の帽　五絃
獅子洞のまゝ[illegible]の梅ハ　三字
実ゝや門の車の牡丹まく　由林
住まゝれかゝ心長者の[illegible]　與一
陰屋ち枇ハ菓屋ち斤　柱　中和
つのゝ半の二葉ようるつ方　秀億

外元の垣根に雪の夜の道　千里
梅賣や一把の紫藤のあらし　玉蛾
ふり〳〵雪りこ角に小梅賣　文幸
この賣や青梅ふまぬ姫小前　鳥狗
もろもろやふうこと針のあり　茅瑋
当葉や椽が地蔓ハ千なり　茄延
豆腐ゐまを村ふむむきの風　茅旭
ねもこ葉も風情ふらや社美　栫尾

紫陽花ハ泡もう輕し　雲平　茅文
駿河路やもろこの初茄子　章也
大ふも寄とふ初ふ子　都十
わもちさあの仕者色ふ　友以
ふ〳〵ぬ夫のりえふ　單物
思百合の具ふ夫ふ　圖大
澄ふ〳〵植〳〵ゆく面の濁ふ　杜嵩
谷ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ蹄や苔の花　龜成
　　時雄

藻のもの天の橋よりなほとほく　如鷹

奥福禅林　わらふ

牛鳴の牛見つけうり木下闇　由林

甘香隔壁聞

ひとつ花ちるせとの風雲　萬立

白露や夏ハいまれる草なり　扇裏

ゆうすゝ冬ゝ青ゝ　五絃

如ゝ紀藤のもめゝ　茅字

聖海上人のかいりしハ

いさゝか日星乃印　姫押　茅礎

嘛なるもの久しく病ふ

ぶふんゝとまるころ

祈禱つゝもめふ女の寄

露きくてんゝ来日やをとふへ　春来

朝臭やゝさめぬ垣乃裏表　曉翁

あさうゝや江戸紫の花乃池　茅山

朝顔やわが坂まくの旅寝哉　機夕

蓬やこゝろの山のたゝるまゝ夢　三字

摂待

萩すゝき風に茶碗や捨取ル捨　存義

満る時蔭〳〵見ゆる草の家　亀成

風の芭蕉ゑをさゝる待ゝ　茅二

薄よりやさしき花ふむしゝ　吟糸

玉川へ少ふるひしる一葉哉　吐月

遠雷の噴やすゝん稲のゝ　匂狗

桐葉落〳〵猶葉ゆゝ　由林

稲刈のゝ風ゝ　再賀

のゝ子の洗ゝ　茅舟

蒼〳〵咲ゝ　由雅

菊ゝ　茅仲

杖つゝむの蔭ゝ　和貞

ゝ見ゝ樹屋ゝ奥ゝ菊花　玉蛾

数の菓子や止むとかりの茶純
菓子ゝの白露に紅粉三千 秀億
ゝ孫の仏ゝ如かりの小菓子 茶仲
滝もやゝ付寒ゝ冬瓜汁 許道
荻の葉や寝ゝとつゝける月の音 軽羅
四角や陸奥とおもふ羽の紅葉 清泉
新蕎麦や浴はりめくゝ武蔵原 沅水
谷陰ゝ下部の青ゝりゝ狩 百義

ゝ月ゝ深ゝゝ葉ゝ 黙斎
鹿鳴草朝酒ゝ山居の角 載二

酔鹿紅葉外 牛呑

引ゝ附ゝ附ゝ紅葉しゝ牡のゝ角 青洲
鶯ゝかゝる月白柳ゝ 中和
大根しゝおのゝゝとゝゝ 茶璘
落葉ゝゝ社ゝ鹿ゝ 曉翁
二股ゝゝゝ大根ゝ 時雄

[illegible]　吐月
大寺のうち道せくに花蔭葉うゝ　十曉
ゑゝ仙と腰えとの　別庭友　茅文
雨ふるゝ池水ゆくりなくあやうか　如鷹
ゑゝ仙かうしの菴ゝ　都十
風や寳さへ花さくゝ千葉さくゝ　子間
ゑゝ仙のむかりふれわまを垂れ　我又
茅の花よ荒くゝ宮居の流うゝ　茅幸

[illegible]月[illegible]仙　柱地原　潭島
木のしゝ小障子わるゝ　梢の南　茅車

有感

唐鳥の囀る日うゝ　寒牡丹　梅郊
小さうしてかうしての梅や冬　茅黛

一ぽうくゝ土のうゝ月れるゝ　さゝ色の絹
茅となけさしいえ緑のむゝ　もゝ[illegible]
[illegible]ハうとうゝ　めうゝ　換稿書

よりての紙をとて合をして硯を筆よ
なりめ地紙かうとて一白さくのう
ちに書よう赤い色をとうとう
思惟すく
一すべて物の起かさとるるも潤飾
かつれて幸合附會し故實となるもの
しきへい如意いめしの爪杖めく背角
竹木をりくのよの指爪をたとう柄を

三尺ばうかりくのよの指ふ痒あるく
よの到らざる所を見めく搔抓すくの
意のこしとくるめく変を併ら今
ひまどのよの須しるを譯經の論し
いまつて如意の制ひんの表し爪杖ふ扃い
文珠のこれ豈これを用んや孫ふ節文
を記し忽忘ふ俗宜の筋ふ記し
とくるい後生のこをもつくなら

ゆるしなく又昭明太子の木犀如意をも
うるはしく仏杖ゆゝしく吉祥菴の執の雲葉心
字のかゝとゝ異しとも
一むしゝゝ大磯の化地蔵とゝ旅ゆく
人の目をて路のうゝかるゝゆしのふ
ゝもめるかくらゝ人ハ堂なと巖
かすゝ榜ゝ死代地蔵とゝしいかゝ
人の危難をまゝひのゝ死ゝゝ

ゝもゝんぐゝゝと異出人ゝゝゝ
一春豪上人ゝらゝの浦ゝゝく蛤を賞ゝゝ
海ゝなけゝゝゝゝゝゝゆゝゝゝ功徳ゝゝ
めゝゝ思ゝゝゝゝのゝゝゝの多ゝ蛤ゝく
集ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝれ南無の死を法
て出離の朝をゝゝゝゝゝゝ得脱まゝ
ゝゝゝゝと上人ゝゝゝまわゝれゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ生の死ゝゝゝぬる

[illegible]色を離と知るが如くに
人々蜂の[illegible]
一俳諧の楊墨ふりぐ列子莊子が起り
[illegible]異端[illegible]へす韓柳碧玉[illegible]
牡丹八岐の大蛇ゥ槽糴氏の血のぬかるぶ
[illegible]作意の至れる建久の[illegible]熊谷直實
[illegible]と久下直光と爭論ふ[illegible]道せ[illegible]る
東鑑の趣ハ異る[illegible]なりしを[illegible]敦盛[illegible]

義少年を討(ウツ)く世とい捨[illegible]いる[illegible]若道の
[illegible]
一寶正年中將軍義政公春日御社の時御能
十三番被行觀世寶性金剛竹田是をつとむ
出雲(イヅモ)十柄(トツカ)二見(フタミノウラ)浦(ウラシマ)鳴(ワル)神(カミ)卯(ホシノミヤ)星宮[illegible]今
[illegible]
一火雨い大雨の書[illegible]日本紀(ヒサメ)大雨
[illegible]大火の二字[illegible]

むさゝの訓も火の毋るもし氷雨をもゝめ
りゝゝ各別し
去年（こぞ）はいまゝ花やゝゝる夜　連城
春雨のゝゝ毋り定めむゝゝ　韋雅
まゝ毋や色のゝゝゝ紀の戸　其道
草長食ゝゝゝゝゝ春の夜　默斎
まゝ雨の窓ゝりゝゝ蝶ゝゝ　紀農
連歌の胡蝶ゝゝゝゝ　米車

雨やもの傳奇い松檜原　其道
さみゝゝや竹のゝ供ゝ乱髪　甘棠
ゝゝゝ煙やさゝ夜　米仲
さゝゝ朝ハ雨の草の菴　米轍
綿入ものゝと斗やゝゝ毋　蘭風
雨雪のゝゝゝ今年竹　硯明
夏止んでゝゝゝの暑ゝ　輕羅
夏さゝやゝ風ゝ舟　楚纓

秋の白尺八をの〳〵夜ゝ長し　米杜
滝のもとみゆるまで時雨ふる　扇裏
打ちそゝぐ風の音ものすごしくれぬ　嘉廷
初しぐれ小屋ふきぬる音　春堂
馬の蹄西日ふかるゝ村しぐれ　米徳
草葺の人音もわびしく時雨　三字
ものゝ沼瓶ゝ〳〵むやさゝ岡　米宇
ちらくと雪を餐中の白夜ぶり　米璃

ゝの人の見ゝんのもしらしを　一瓢
燈臺ゝ〳〵なくもあるの中屋　常樹
啄れた鳥かもれて霜けしら　龍眠
一ゝの人物鳥獸草木の頭巾墨ふ面意
をわゝ〳〵宮ゝの名工よすゝかうす
迫ゝ生ゝぼしゝゝ度ゝやゝく喜和
くゝと一ゝもゝゝとのゝあゝく面勢よ
のゝゝす是ゝ和ゝの生ゝ

とりあつめ見んとうい生るものとみてうの国々
みるむかしこゝ安い備りて別に活法あ
るゝ給の貴弘とゝ地産まくさまられ
稀なる唐島藥草の孔みい山川屈曲の
地理とゝ自由に得ゝ為を忘れくるゝ
四ゝるゝ辰ゝつゝかくあるあり 譬喩品

一雄畧紀 吉備上道臣田狭が稚媛(ワカヒメ)を補(ホメ)る
詞に鉛粉弗(イロモワクロハス)御蘭澤(カモソフルフルコトナシ)無加とわれい日本

めゝ白粉と丹ゝゝ製の始を
ゝの国ゝ貳百余年ゝゝ持続紀乃世門
観成と見ゝゝ

一 春来愛醉戯語

法華経とゝの色ゝゝゝゝゝ痩枯
て容色老ゝ勝間田の池に髮きい老
年なるゝ齢六十余りゝゝ書
もかくゝ冨貴とゝ餓よ

[illegible]
まゝ時々酒の奴となりて行時も
臭くわまゝ一日の業事わるいい
石ゝ樹ゝ花草を友とし
山ゝを分入りて土を鋤さくとて
くゝみ会さすがにたちまち鍬を抛(ナゲウ)
ち帝を捨て例のいたづらる御う
詩を賦られし奇と泳ぎまとらいし

[illegible]和漢一般の大馬鹿ものゝるくしと
つゝとうつゝく
涼しさ上様も起くも九裸　春来
一春来師ちゝ病ふ病ふ
うつゝ行くゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一千本釋迦金佛のことい[illegible]れて華ふ文永の比
如輪上人[illegible]ものと書
寛仁年中定賢上人音乱名号大念佛の
始祖[illegible]一旦破滅の[illegible]三百余年とて
如輪上人[illegible]
[illegible]

[illegible]
一山門（サンモン）は叡山とよめる寺院にあるい
三門（サン）と書くは釋氏要覽云寺院ふ只一門
わるの中に三門とよるい何ぞ佛地論に
云三解脫門（ケダツモンヲ）為所入處（ニトス）と見えたり空門を
相門とし無門を三つの意なり

涅槃會

祥そくるの其きさまの餅の饌　春来

川童梅　永芳

[illegible]　永機

年穀小男のうたる彼岸の中

画賛

柳ヶ瀬西方志[illegible]　茅仲

[illegible]法の花番のうしこと　茅明

法師人もゆめのよ[illegible]　礫島

[illegible]　茅仲

錄金紀行　長谷[illegible]

第[illegible]佛のうたれ長さ　茅舟

寮坊[illegible]の拍[illegible]　茅仲

奥[illegible]多奇峯

[illegible]五百羅漢のあるなり　青徳

取わ[illegible]　茅審

[illegible]世と牛の[illegible]　紙虫

長生きのうり云字[illegible]　永機

辨慶ら借惜しいとの馬一疋絹一端
わらひとを山全粮米の須
年ごろ馬もらうの世澤まうす　米仲
祝言めでたく月わたりわらう興福寺　錢中
もちとさめ魚ゆかしらの秋日てう
この中よくて祝ら食とし
ちれ外ちに二百十日の節もうき　旨原
奥の賜る軍所門内のりうの仰　巴川
虚無僧の足跡をゝむ世東うの自　章雅

古寺にいとくも色ちくく淺葉　五絃
達磨會のゝ松のゝ島の声　春来
年ごろの圓相の餅ゝし　子莫
遠磨ゝの葉ハ枯ゝ　淺梁
世の中ゝどろ寒の仰　関西 鳴海 洲江 和菊
頭巾ゝ角ゝとれゝ十度
ゝ時々經書堂と舎の仰　存義
墨摩ゝちゝく紙の下紅葉　田社

所思こゝにあり器

楷の穴や最明寺殿　茅仲

鐘こゝ軽き所なりや鉢こゝよ　茅山

鶯のあるこゝ里や鉢こゝよ　森羅

もゝふの人の留るこゝ居行如　花礫

木魚みも寒のかゝりや年の辰　遊翁

少い僧の鐘の墓や金仏　由林

山長ハつぼゝるこゝ寒金仏　其道

毛長や存こゝ頭巾のうん祈こゝ　菊院

土佐こゝの山こゝ男や金仏　永機

寒念仏極楽こゝ夜明や　汽水

今曲の声の名残や寒念仏　うまん

ゆきあひの山こゝのかの金仏　来青

山こゝの湯あこゝや金仏　茅礎

煤の日ハ平仲良や若旦那　岩舩　茅及

馬の脊小鄙の痛こゝ所老こゝ　青徳

狂語

如夢幻泡影如露亦如電その中ふれわり
わるい蚤鑵小刻〜鬢い描き
毛の伸びるまま風わるまぐれ頑れ
ゆきわるびるぐ玄冬素雪の寒
きゆく赤裸ゆくりぐさるいとも
れろ〜仏帰世界の腹ふれ餓鬼場
とゑする弱武者し父ちゆく母もゆく

箸もなく汁もなくて椀の山盛りと
ばくばくくんず月の膝とうへて
ひゆの時一飯喪じて冬こと燃よれり
見世物ゆゆ〜海陽債をとり陽
るくの行雷を不便ゆれ〜まれ
つく〜世ゆ男とゆ〜ふのゆ陽のゆ
ま三〜〜〜〜さ〜れゆ甲蛙なく女
ん主陽ゆ根のゆるれゆれ

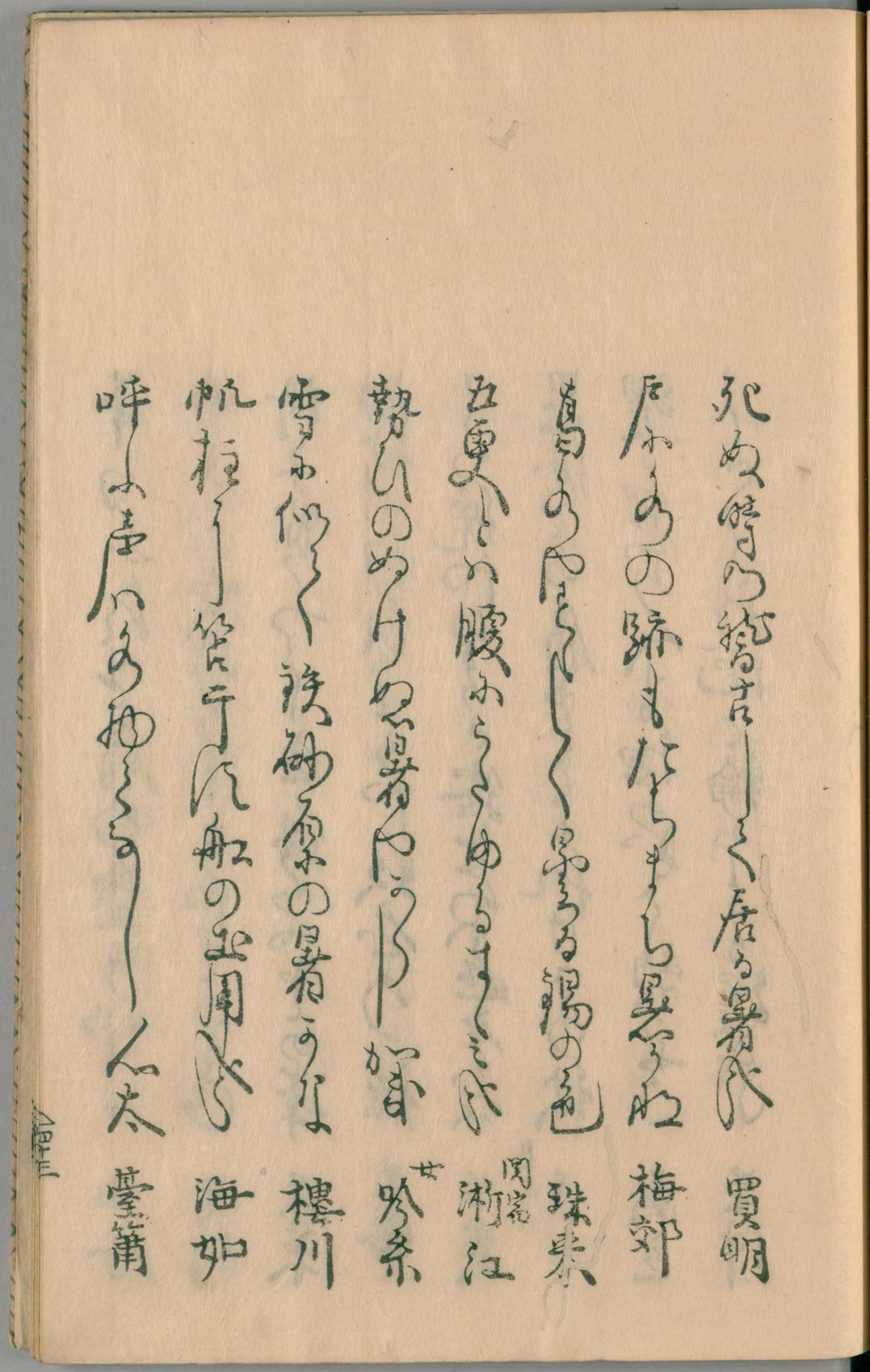
国立国会図書館　タイトル『靭随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

八月人かたちをあらそ
ものあり田鶴かあるを千とせ
をへたりと毎年あること
しるべるこころをとりそへて法会
とけりこの年つづる大腹中
とをいくなのしへ
すまひ
女餓鬼（メカキ）蓮の飯　米仲

一ふかきれる家頼も知れたるもの
癸間ノ日ハ吉祥天女誕生の日也　素盞烏
尊おもひもあるを八尺（ヤワタノヲロチ）大蛇を退治
回日もしく金烏玉兎集の日
真書の真偽いろすいうんれい迷者
とをるしく安部清明（キヨアキラ）朝臣入唐傳
安倍晴明（ハルアキラ）
天満宮女のうつや　寫巾　沅水

一膳の飯と小坂の月　玉蛾
先一座は山口の夏人作　鳴海蝶羅
うけうりの雲の峯　六器
ゆ餘まるうち町の日さし　米旭
春くれる空の松の朧うち　呉雪
日かの雲に阿蘭陀の夜とりつの
ゆうべ松尊あるしらべ美人の
壮觀とうるのうち
紅もの夜と夜れなり雀深　米洞

虹のうれあるの橋の三字
潮巻の眼ーかうと葉ト桜朝　沾路
お代りの発を雲ト山の家風　赤子
何ぐるまに下馬の日ト初袷　四川
ちうるまを宮ト袷作　湖海
良かりの扇風ちうける扇の南　普子
喰ふかりに不見る丸号の田植ト　塵匝
蝶ト人宵ト蝶の中　愛賀



来青
作蓁鉛
再賀
呼堂
茅斎
茅礎
環山
遺院

買明
梅郊
珠柔
閑居
浙江
吟糸
樓川
海如
臺簡

草白ふたを扇の壁の中　山子
白くの吹たくしてもやはものの　青洲
倚子賞ふくさ情ふくもの　茅巣
初秋の初しくるや数屋の祖　茅鳳
くも飛やいくさ露見の　子英
思線なの扇中くこれけさの秋　カヒ川　茅市
躍和やくも稲の穂　萬之
くくくれ泡と輪ふる躍ふ　茅仲

人間の稲くふ屋くと躍う中　鯉風
誰ら娘くら蜻くくの輪　桃星
雲厚の戸奴ふ蛙ふ踊ふけ踊　摩十
躍くく鼓金冨柳雪のくち　如鷹
投くくれくる市方の岡角力　田旦
一ふ稲ふくく食ふくく辻角力　圖大
くの厚ふ取ふれ腰くかくしく　茅仲
草の戸をかくく都の角力中　丹鳳

支離とかつれなき相撲元　曲義

南山の蟇けわしき夜　赤子

なまめかれけるかなる鶏立　西山　魚川

百姫のかくれ戸の角かくす　茅丈

細工かいせしたるかくれ花　庭臺

琴の音の高雲ふる花賓　爽樹

ゆくへかゐ稲妻さしたんの形　潭島

さきの鶴とかいか抜とかたの角　我又

長生の小さき宮　青霞

手の届かぬ食べ物の形　茅儀

わさのさ長月のさのうの声　宮内卿

晴と雨ふるかけてはまの一瓢

露ふる地のうとうの万軒

永わくる箸の軽かるの風　許道

庭ふる夜のあわれあるの風　湖十

石の切る伊豆の山の秋の声　義道

吉輪の一度かくれく秋林　鳥皮
秋の夜や二つ三つのひとりもの　西月
終夜鹿やきしわきの聲　秀曉
泄實ふゆくれまとふ秋の暮　樓川
うんと撞く撞と伽ける撞のくれ　菊丸
関守のかくしらしらふ稀の連城　連城
しら菊や酒屋一軒ときしく菅　超雪
正面もなくして茶山の夫先ゝ　社嵐

此人ときしらしらふ宝の市　呉轍
初冬やうのるれ民とうしかえ　正川
口切やんしまきふ碧隣　湖十
切り亭と娘一客ふ元　玉蛾
くらくらの籍に付くらの岡門　超雪
十月や女々咬の月ありきれ　鳴海　鉄変
十月の中のわしふ茶の煙　同　鍋盛
薄雪の鈴と寒しく夫うし　庭堂

国立国会図書館　タイトル『靭随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

ふるさとの細わゆき　秀溝
日完わうる晴わうえんの傳　柳尾
日の卿のうんの動やうれる月　起来
完投くこうもものこの餅　茅策
冬花眼ーついうる日卿　茅鳳
老てうくる雑蕉氏冬うう　錢中
四角の勝と敵の冬木成　茅運
冬うう八年ふとう世氏　呼童

下戸のわの所の傳わる冬竜　連城
冬うう家の傳授の侍ケ　鯉風
家角帳の上原先ふる小ふの和　我梁
入相やううう見る冬の山　湖海
六十の年わふれ家置頭巾　秀億
四方山ふん安さの巨燈ふ南　梁宜
牡丹ふ是ふふ丸太鉢　カナ川　茅布
わうう合ふ使者ふ薄ふ安鉢氏　茅二

百年かゝるゝ頭巾　羊羹
ゝゝれか今年も水桶　水路
鐘ゝゝゝ時計ゝ　裏賀
四つかり角かゝゝ道頭巾　西月
鬼汁かゝゝあゝる親子　許道
石鉢ゝ寒ゝゝゝ山嵐の角　左瓦
かゝけかゝゝゝゝる　秀曉
かゝて鐘摘福屋ゝ　由林

ゝゝゝ庫ゝかゝ夜の寒ゝ　輕羅
道問ゝ八幡ゝ教ゝゝ　道院
懸勅か屋ゝ屋の山ゝ　畔水
鐘の声つゝ松白し今朝の霜　鳴海蝶羅
風か星とゝかゝ檜山　樓川
かゝ別の坂ゝ紙ゝか　百道
ゝもゝかりゝの紙子　羊儀
拍ゝゝの杖か月ゝ氷柱哉　赤子

寄稿の紙一束を霧の如く　韋雨

林塘とうみ一ぱい

いろいろの花咲きつらなる霜　珠来

鳥見さまの三人とれのわらうて　墨箭

髪置から食う重いよう食う如　呆仲

一

貝鉛

いろいろ貝の寶石を年貢納めるの

沙の干潟からの貝を都とつかねと

視るのもとう秋を江都のくうめ

ものしくんの西のものしなのふたた

何ものもとくとけるもの

他もれ眼前淅江の潮水秋を浸し

ありの如のもれるまの川のふの盛と

りくくやーねもれ一年詩百篇李白

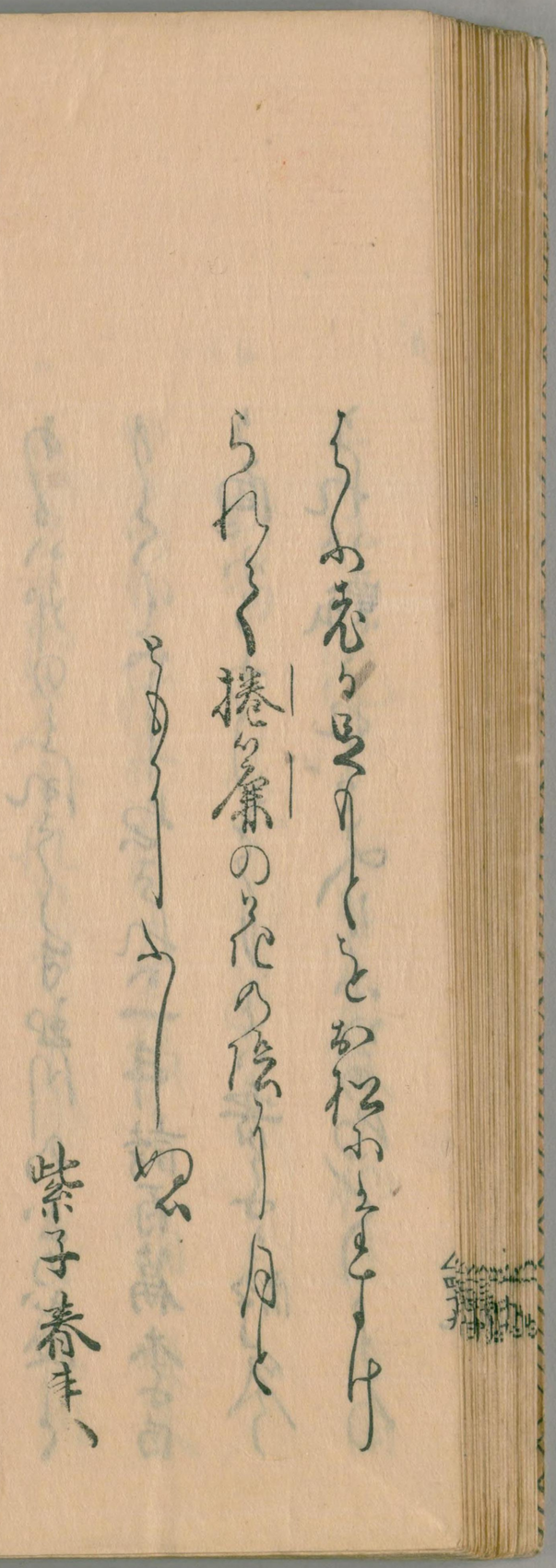
の酒のかうもとい賣ようの酔琴

れい瓢れもの文ふかのくもの

国立国会図書館　タイトル『靭随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

863
2
124

14210



国立国会図書館　タイトル『靭随筆』　請求記号 863-124
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『靭随筆』 請求記号 863-124

ガラス使用